



採る

※画像は『生野銀山絵巻』より(生野書院所蔵)

山に掘った坑道に入って鉱脈を追って掘り進め、鉱石を採ってきました。掘り進める坑道の中はとても暗く、坑人たちは灯りとしてサザエを用いていました。



割る→砕く

山で採ってきた鉱石を吹屋と呼ばれる作業場に持ち帰り、叩き石を使って割ります。台として用いた要石は凹んでいます。そののち臼を使ってさらに細かく砕きます。



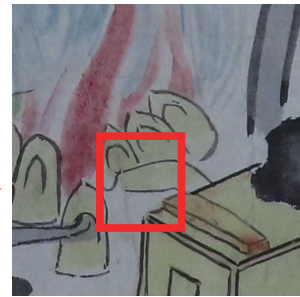
選び分ける

砕いた鉱石は水の中で比重の大きい重たい鉱石と軽い岩石を選び分けます。「ゆりわけ」と呼ばれるこの作業は、ざるやゆり板を用い水槽の中でおこないました。



溶かす

選び分けた鉱石を製錬炉の中で溶かして、金属を取り出します。高温にするために、吹子や羽口を用いて空気を送りました。

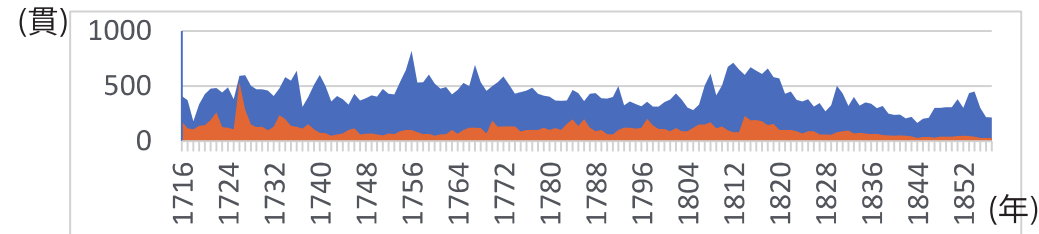


16世紀			17世紀			18世紀			19世紀					
八〇七	一五七八	一五八二	一六〇〇	一六二四	一六三二	一六九二	一七一六	一七三五	一七五四	一七九六	一八〇五	一八二七	一八六八	一九七三
生野銀山開坑(伝承)	織田信長が奉行を置く	豊臣秀吉が奉行を置く	徳川家康が奉行を置く	石見銀山の産出量が減少	摂津国能勢から南蛮吹 なんばんふき が伝わる	銀産出が年間760貫に達する	徳川吉宗が代官を置く	千珠山で産出量が増加	金香瀬坑で産出量が増加	福寿山で産出量が増加	太盛山で産出量が増加	大亀山(千珠ひ)で産出量が増加	明治政府が鉱山司を置く	生野鉱山の採鉱部門廃止
			第1期			第2期			第3期			第4期		

産銀量の推移

■ 生野銀山
■ 石見銀山

※ 1貫=3.75kg



※協力:株式会社 シルバー生野(史跡 生野銀山)、奥銀谷地区自治会

現地説明会資料

令和7年8月2日

生野代官所跡関連遺跡

発掘調査の成果

事業名: (国)429号 小野交差点 改良事業

調査主体: 兵庫県教育委員会

調査担当: 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部

調査期間: 令和7年5月19日～令和7年8月18日(予定)

調査面積: 172㎡

兵庫県教育委員会

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町1-1-1

(兵庫県立考古博物館内)

URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>



はじめに

生野代官所跡関連遺跡は、朝来市生野町奥銀谷(おくがなや)に所在し、市川東岸、生野鉱山のほど近くに立地しています。今回、小野(この)交差点の付替えに伴い発掘調査を実施しました。

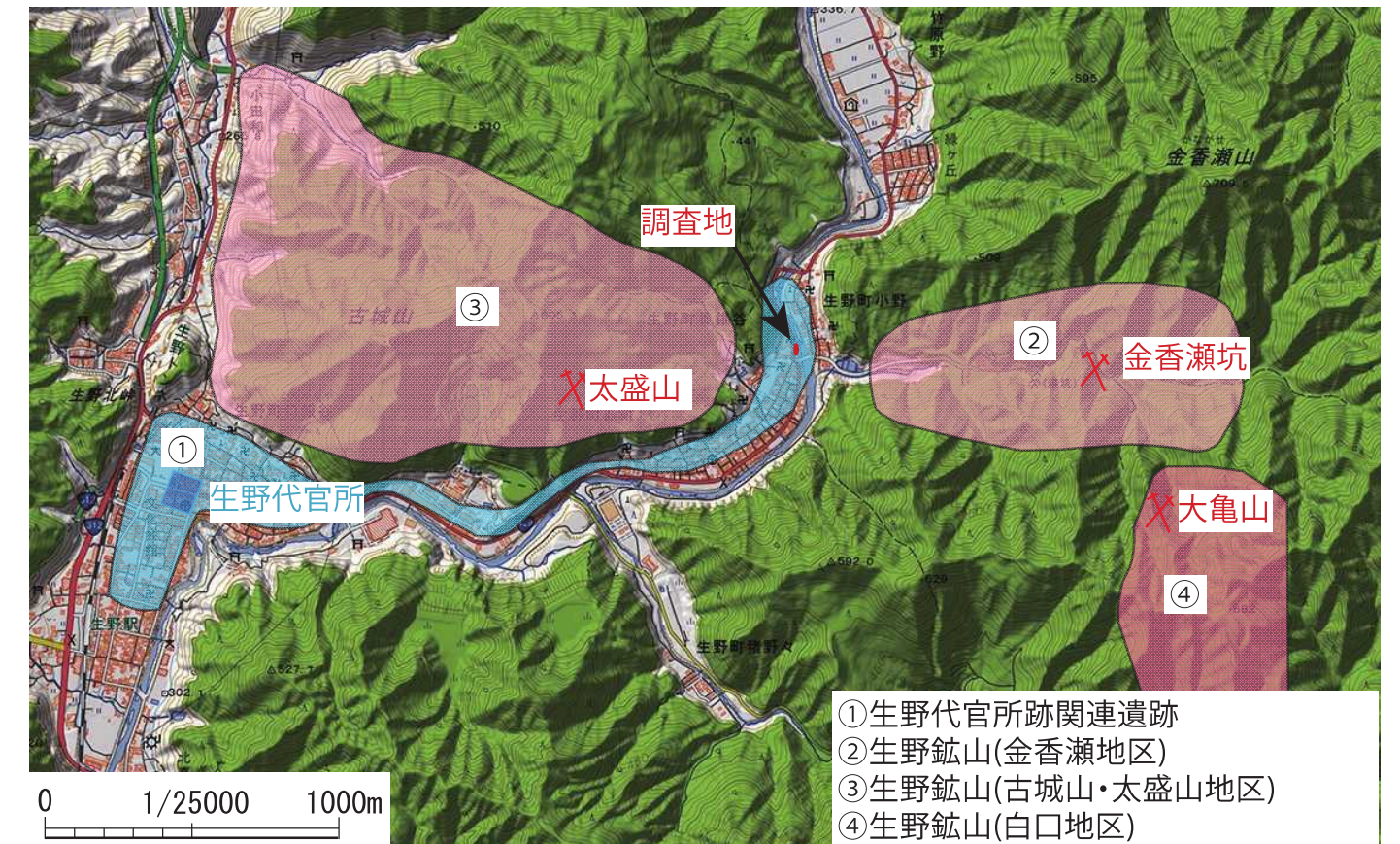
生野鉱山と生野代官所

生野鉱山は807年に開坑したとされています。16世紀以降は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が直接管理下に置き、現在の口銀谷(くちがなや)地区には代官所が設置されました。

今回の調査地は、生野鉱山の中でも②金香瀬(かながせ)地区に近く、周辺では江戸時代を通じて採掘がおこなわれています。調査の結果、江戸時代(17世紀～19世紀ころ)の5時期にわたって、鉱山で採れた鉱石を製錬した炉(製錬炉)がみつかりました。製錬炉のほか、鉱山に関わる遺構や遺物が見つかり、鉱山周辺での作業を復元する上で重要です。



調査区と生野鉱山(西から)

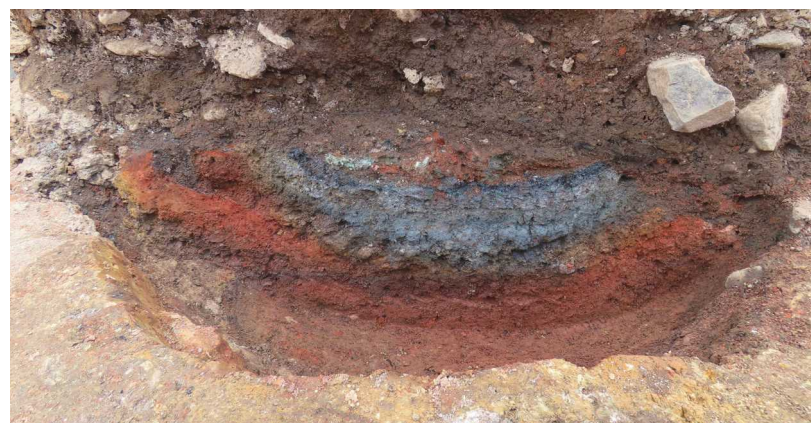


生野代官所跡関連遺跡周辺遺跡と坑口の分布(国土地理院地図をもとに作成)



製錬炉の構造

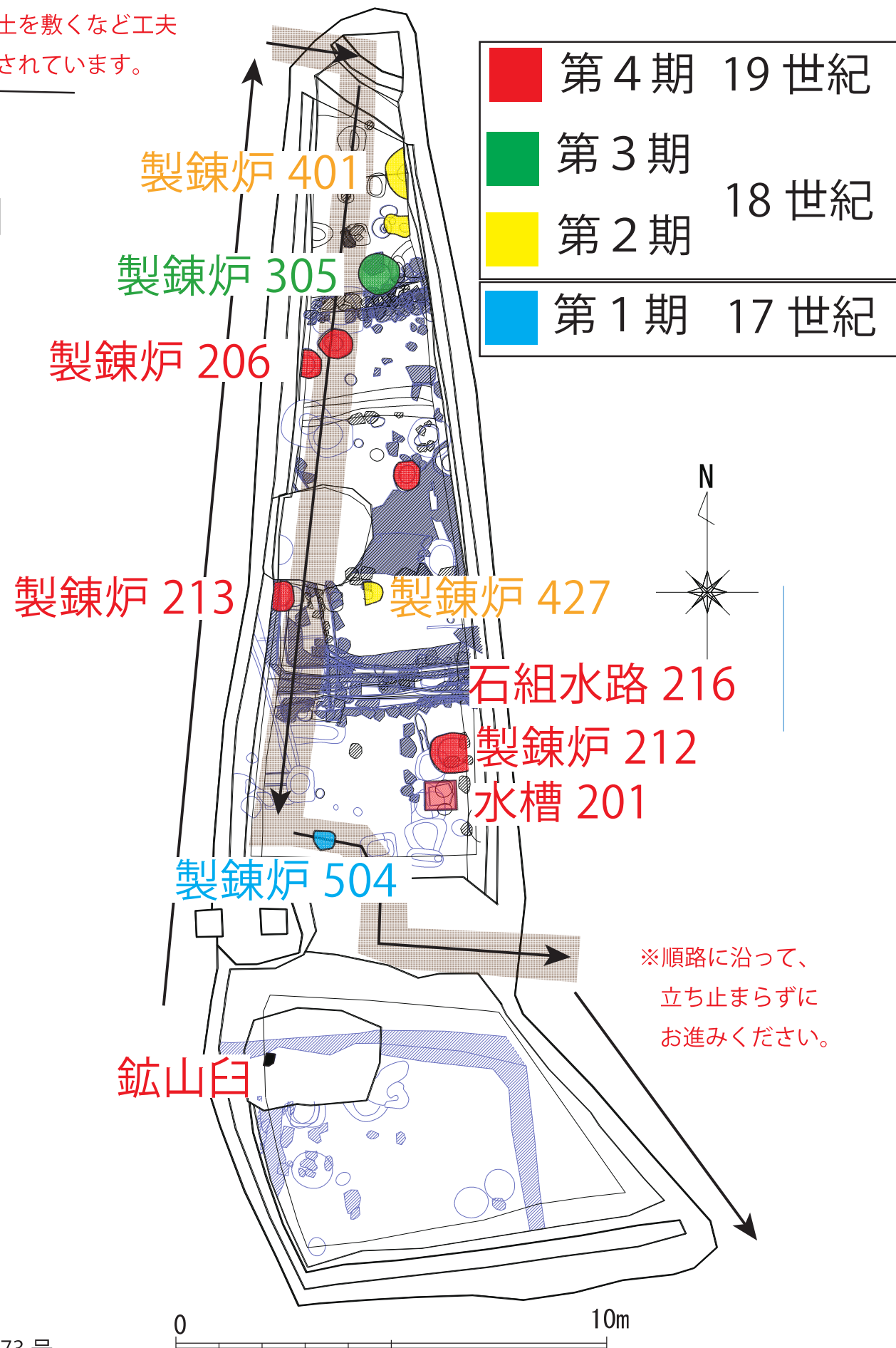
(葉賀 1994) をもとに作成



製錬炉 401



製錬炉 504



製錬炉 212



製錬炉 213



水槽 201



製錬炉 305